

デイのアクティビティ

「メニュー選択」で予防に効果

京都府モデル事業報告書

京都府はこのほど、デイサービスで実施する介護予防のアクティビティのあり方について、モデル事業を行った結果を報告書にまとめた。アクティビティは運動器の機能向上など他の予防メニューのようにマニュアルはない。予防の効果検証の方法なども確立されていない。府では、集团で一つのメニューを取り組むのではなく、なるべく多くのメニューを用意し、利用者自身を選択してもらしながら少人数単位で活動する方法を提示。府内の三つの事業所で試行的に取り組んだところ、利用者の活動意欲や心身機能が向上し、自宅でも活動を継続する人も増えたとしている。府では今後、「京都式のべるデイサービス」にとって多くの事業所に取り組んでいく予定だ。

モデル事業は昨年11月から3月にかけて府内の三事業所のデイサービス事業所で実施した。利用者は16人。ゲーム・健康・ものづくり・園芸などのメニューで、少人数のグループで実施した。グループ活動には地域の元気高齢者がボランティアとして参加してもらい、職員の負担がかかるが、本当に希望する活動を選んでもらっている。少人数のグループで実施した。グループ活動によって、利用者の活動意欲が高まることが分かった。また、利用者の活動意欲が高まると、自宅での活動意欲も高まる傾向がある。そこで、自宅でも活動できるように、京都式のべるデイサービスを実施することとした。

事業実施後の利用者へのアンケートでは、従来のデイサービスと小グループ活動に対する評価が高まっている。一人ひとりの個別ケアに対する認識が高まっている。また、分析。世代の近い

五六十歳が小グループ活動と回答。意欲の向上が確認されたほか、デイで行ったものづくりなどの活動を自宅でも自分でしたり、利用者が実施前に比べて

五歳程度増えている。また、利用者が実施前に比べて心身機能の面でも、特に軽度者では全ての項目で向上の成果が見られたとしている。利用者のやりがいや楽しみを重視し、一人ひとりのニーズに対応する手のいり方が介護予防効果も高めだと結論付けている。

さらに、職員側にも「利用者の多様で囁れながら、それを把握できた」「できるだけ多くと利用者を過小評価してしまった」と感じた」など、一人ひとりの深くかかわる姿勢が芽生え、個別ケアに対する認識が高まっている。また、分析。世代の近い

元気高齢者が参加するの」「介護予防について関心を深めたり、始めたボランティアも大半にが尋ねられたとしている。